

## 私たちの運動が損保産業と職場の状況を変えつつある！ 新しい情勢 結成20周年を奮闘しよう！

私たちは今日から結成20年に向けた活動を開始します。損保産業では2000年と2010年に大型再編がおこなわれ、今日の業容拡大・利益第一の路線深化が進みました。その中で、労働者と代理店への効率化が一層強まりました。また、この間、労働組合の分裂情勢の下、労働環境の悪化の厳しい現実も進みました。その中で、私たちは産業を基盤とした職場革新懇の一つとして存在し、雇用と労働、そして産業のありかたについて多くの発言と活動ができたことを互いに喜び、確認しあいたいと思います。

この一年、活動のすべてを「結成20周年プレ・イベント」と位置づけ、総会スローガン「人開の尊厳を守る」を掲げ多彩な活動を進めました。

主な取り組みとして、①2月「大阪にカジノはいらない」阪南大学教授・櫻田照雄さん ②3月「福島、6年目の真実(いま)日本に原発はいらない」福島県飯舘村酪農家・長谷川健一さん ③4月「アメリカはどこへ向かうのか」トランプ政権の誕生とその背景 神戸市外大名誉教授・大塚秀之さん ④5月「代理店シンポジウム」開催 ⑤6月「SOMPO ホールディングス株主総会・経営姿勢について発言」⑥9月「小畑君再雇用問題高裁控訴審判決」前の取り組み ⑦「アベ政治を終わらせよう憲法こわすな5・3総がかり集会」参加 9月大阪革新懇「野党統一候補の実現めざす大阪アピール」賛同署名 11月「大阪総がかり集会」参加 ⑧10月「大阪職場革新懇主催「淀川下り」」参加 ⑨11月に参議院議員会館において全国から参加の「代理店の声を届ける院内集会」の開催などがあります。

私たちはこの一年、特に損保産業のありかたと働き方のありかたについて検討を重ね、活動を進めてきました。そして今、文字通り、「私たちの運動が損保産業と職場の状況を変えつつある」という大きな前進と成果をあげています。

2008年に立ち上げた代理店プロジェクトで損保代理店問題についての取り組みを進めてきました。今年5月、3年連続の開催となった代理店シンポジウムでは、パネラーとして法人代理店社長が、代理店手数料ポイント制と乗合制度の現実と問題点などを発言しました。このシンポジウムは、会場発言者、参加者とも代理店経営者が多く、“経営者革新懇シンポジウム”ともいえる集会となりました。国会では大門実紀史参議院議員がこれらの問題を取り上げ、全国の代理店に話題と期待が広がっています。新たに会員に迎えた代理店も多く、嬉しい変化が起きています。来週開催される参議院会館での「代理店の声を届ける院内集会」には、全国から数十名の代理店の方の参加が見込まれています。

損保労働者の雇用・労働条件問題では、政府の「働き方改悪法案」に対し、職場の実態を明らかにしてきました。この問題については国会で小池晃参議院議員が取り上げ、社会的に大きな話題に発展、損保ジャパン日本興亜経営は、営業課支社・保険金サービス課の職員に対する「企画業務型裁量労働制」を撤回しました。

小畑君の再雇用を求める裁判では、損保ジャパンの労働者軽視・無視の企業体質を明らかにし、「小畑君の職場復帰を実現する会」の仲間たちと共に、同社の従業員と社会に訴えました。裁判では敗訴しましたが、このたたかいは職場の仲間にも事実を知らせ、広く連帯と団結を高めたものだったことをしっかり確認しあいたいと思います。

これらの運動の成果は職場革新懇運動の領域を拡大したものと言えるのではないのでしょうか。職場革新懇運動にとっても大きな意義と前進を作り出したことに確信を持つてはありませんか。

暴走する安倍政治に対し、「市民と野党の共闘で安倍政治を終わらせよう」との声は国民・市民に広がり、内閣支持率は調査の都度、選挙後も低下しています。総選挙の結果は、小選挙区制のマジックで、改憲勢力が三分の二を超え、革新懇運動に参加する共産党が後退したことは残念ですが、立憲三野党全体では国会内勢力を拡大し、立憲民主党が野党第一党を占めたことは極めて意義深いものです。

安倍政権は一層アメリカ・財界依存を強めており、憲法改悪の策動をも急いでいます。私たちは引き続き、「人間の尊厳が大切にされる」社会の実現をめざして、真の市民と野党の共闘が進むことを期待します。そして、革新3日標の下、損保産業の民主的な発展をめざして、豊かな活動を展開し、結成20周年を迎えようではありませんか。